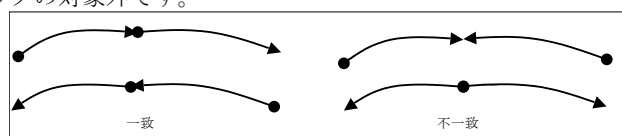


1. ネットワークチェック

[チェック]-[ネットワークチェック]で「点列の方向が不一致」を「点列の方向が不一致(分類コード別)」と変更し、「点列の方向が不一致(全体)」を追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

【点列の方向が不一致(分類コード別)】 同一分類コードの線要素が端点で接している場合、点列の方向が一致していない端点をリストアップします。間断区分が設定されている線要素と設定されていない線要素のが接している場合もチェックします。閉じている要素、つまり始点と終点の座標が一致している要素はチェックの対象外です。端点で接していない場合、つまり、端点が別の点列の中間点(端点以外)と接しているケースはチェックの対象外です。



3本以上の端点が集まって分岐になっている場合、判定しません。長さが短い方の線要素を[チェック]リストに表示します。

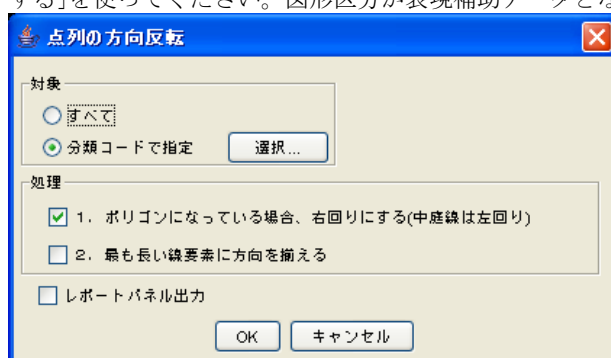
不一致を一括して修正するには、等高線については[チェック]-[等高線チェック]の[点列の順序(TIN 参照)]-[点列の順序を反転する]を、その他は[一括処理]-[点列の方向反転]を使ってください。

【点列の方向が不一致(全体)】 選択された分類コード全体について、点列の方向が一致していない端点をリストアップします。例えば、真幅道路と庭園路を選択して、真幅道路と庭園路が接している端点での方向の不一致がリストアップできます。真幅道路・庭園路両方について、点列の右側が道路となる仕様の場合にこの機能で検査できます。他に、海岸線と河口線の組み合わせ(点列の右側が海部)の例もあります。

2. 点列の方向反転

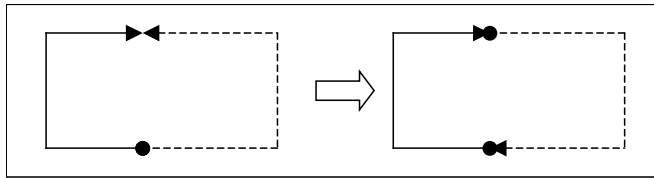
[一括処理]-[点列の方向反転]で、図形区分が 31(中庭線)の場合は、左回りにするよう変更しました。以下、説明書からの抜粋です。

面・線要素の点列の取得方向を反転させます。[チェック]-[ネットワークチェック]の[点列の方向が不一致]箇所を修正するための機能です。等高線については、[チェック]-[等高線チェック]の[点列の順序(TIN 参照)]-[点列の順序を反転する]を使ってください。図形区分が表現補助データとなっている要素は対象外です。



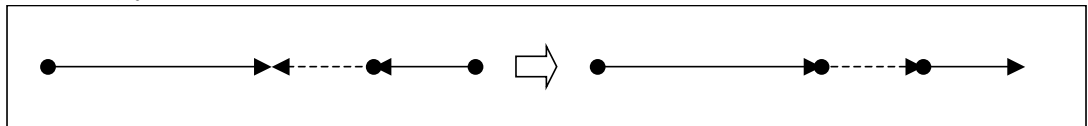
【ポリゴンになっている場合、右回りにする(中庭線は左回り)】

面要素あるいは線要素が閉じた図形つまりポリゴンになっている場合、右回りにします。複数の線要素が端点で接している場合も対象です。図形区分および間断区分が異なっても、同一分類コードならば、繋がっているとみなします。図形区分が 31(中庭線)の場合は、左回りにします。



【最も長い線要素に方向を揃える】

線要素が端点で接しているところで、点列の取得方向が異なっている場合、最も長い要素の方向にあわせて、他の要素の方向を揃えます。[ポリゴンになっている場合、右回りにする]が指定されている場合、ポリゴンになっていない組み合わせのみが対象です。[ポリゴンになっている場合、右回りにする]が指定されていない場合、ポリゴンになっている組み合わせも対象になります。



なお、線要素の点列の途中で分岐になっている場合、方向の判定ができないので、[チェックリスト]にリストアップします。分岐点から分岐点あるいは分岐点から端点までの経路が方向を揃える区間としています。

